資料－８

研究概要報告書

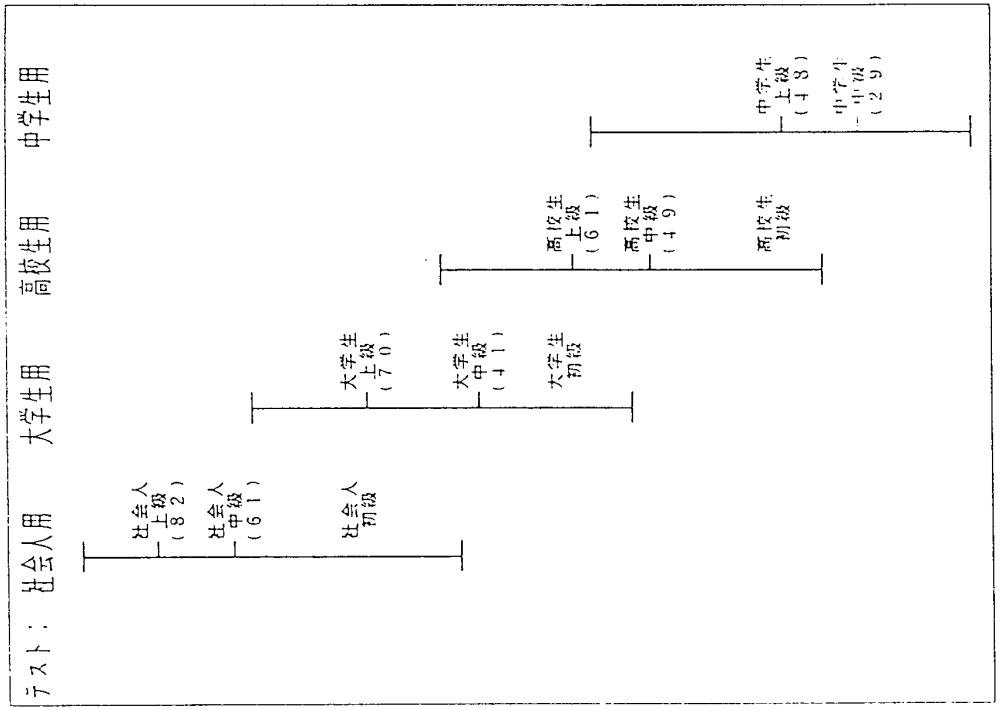
（１）

研究題名	英語ヒアリング力診断用標準テストバッテリーおよび運用力スケールの開発	報告書作成者	竹蓋幸生
研究従事者	竹蓋幸生　高橋秀夫　土肥充		
研究目的	本研究の目的は外国語としての英語のヒアリング力を実用のコミュニケーション能力として「診断的」に評価できる標準的なテストを中学生用，高校生用，大学生用，そして社会人用に４種作成し，さらにそれぞれのレベルの受験者のための「標準的運用力スケール」を開発することにあった．各テストは指導実験等にプリテスト，ポストテストとして利用できる難易度のほぼ同等なものをそれぞれ一組ずつ計８編作成する．		
研究内容	本研究の目的である日本人英語学習者のヒアリング力を適切に診断評価するためのテスト８編が開発された．開発されたテストはそれぞれのグループでトップクラスのコミュニケーション能力を有する延べ１５２名の中学生，高校生，大学生，社会人被験者によって試用された．採点の方法も含めてその結果を慎重に分析評価した結果，テストは信頼性，妥当性，実用性，いずれも十分に高いことが検証された．テストの素材として収集されたパッセージは原則としていずれもネーティブスピーカー向けに作成されたテレビ番組等の自然な実用の英語であった．このことを被験者がそれぞれのレベルでトップクラスの者達であることと組み合わせて，テストの試用結果を基準に受験者のヒアリング力がどれだけ実用になるかを評価できる『運用力スケール』が作成された．また，受験者の能力がそのレベルの者として十分でないと運用力スケールで判定された場合，その結果の分析から「どこが問題なのか」「以後どこに注意して勉強すればよいのか」を詳細に『診断』してアドバイスできるシステムも開発された．この診断の根拠には千葉大学での長年にわたるリスナビリティーの要因研究の成果が活用された．		

様式－９

説　明　書

（　／　）



図－1　テストの得点と適用力スケール

この他に，提出いたしました研究報告書の中の
表４も参考になるかと思われます

（注：　フローチャート図，ブロック図，構成図，写真，データ表，グラフ等　研究内容の補足説明に御使用下さい）

様式－１０